



## 「NPO法人プレーパークむさしの」 遊ぶのも遊ばないのも自由。 プレーパークを 子どもの居場所に。



はだして作品  
制作に夢中な  
子どもたち

「プレーパーク」とは、ヨーロッパを中心を広まった遊び場のこと。「子どもたちが自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、さまざまな体験と交流を通じて自主性やコミュニケーション能力を育む場として、日本各地にも広まっています。

武蔵野市は、全国でもめずらしく自治体の主導でプレーパーク設置が検討されました。「市の考えに賛同した市民が集まり、専門家を交えたワークショップや懇談会を重ねながら『武蔵野市らしいプレーパークのあり方』を模索していきました」と代表理事の池田泰さん。平成20年、境冒險遊び場公園（境3・20）が完成し、「プレーパークむさしの」が本格的に始動します。設置の検討からスタートまで、5年が費やされました。

日本冒險遊び場づくり協会の専門スタッフの力も得ながら、火や水、土、木など、公園内の自然を使ったさまざま

なイベントを行ううちに認知度がアップ。平成28年には「大野田公園プレーパーク」（吉祥寺北町4-11）、平成31年には「しょうらい公園プレーパーク」（吉祥寺東町4-3）の週1回定期開催が始まりました。未就学児から小中学生を中心に、現在では1日平均60人の子どもたちが各公園に集まるほどの人気ぶりです。

近隣に住む日下香代子さんは、「子どもたちの笑顔のために少しでも役に立てれば」と思い、スタッフに加わったそうです。放課後、三々五々集まってくる子どもたちが思い思いに遊ぶ様子を見守ります。「ここでは遊ぶのも自由、遊ばないのも自由。今、子どもに何かをさせようという傾向が強くなっていると個人的には感じますが、ここではなるべく「させよう」からも自由でいたい。子どもが好きに過ごすのを大人はそばで見守るくらいの距離感でいいですね」と池田さん。

平成30年からは、中高生を対象にした「子ども・若者支援事業」も開始。「生きづらさを抱えた子どもが増える中、彼らの居場所になれば」（池田さん）との言葉通り、プレーパークは家と学校の間にある、もう一つの居場所になりつつあるようです。

### NPO法人プレーパークむさしの

平成20年、市民有志による運営団体「プレーパークむさしの」が設立。平成21年、NPO法人に。現在、境冒險遊び場公園、大野田公園プレーパーク、しょうらい公園プレーパークの3カ所です。開園時間などはホームページで。 <https://p-musashino.org/>



武蔵野市民で運営スタッフのみなさん  
（左から池田さん・日下さん・堀江さん・  
藤田さん・山崎さん）



水遊びから泥遊びへ  
汚れてもへっちゃらだ〜